

# 留萌鐵道棧橋会社の設立

留萌港完成のめどは立ちましたが、完成後、港に船が入れば、荷物を動かさなければなりません。億太郎は、荷物を確保するためには内陸部を開発し、産業をおこさなければならぬと考えました。

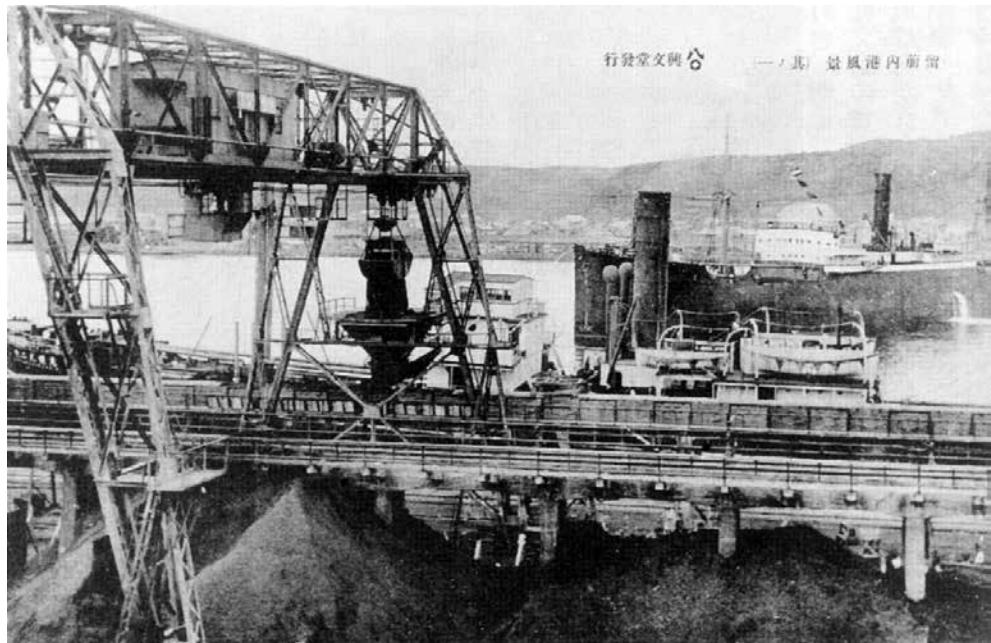
また、港湾を機能させるためには、石炭ローダー(※81)などの荷役設備、倉庫、留萌駅から港までの臨港鉄道などが欠かせないと考え、大正15年(1926)、資本金15万円(現在の約3億円)で留萌の有志と共に「留萌海陸連絡会社」を作り、9月に上京し、丸の内(※82)の藤田組の2階に「留萌鐵道棧橋会社創立事務所」の看板を掲げ、運動を展開していきました。

## ※81 石炭ローダー

石炭を船に積み込む器械。

## ※82 丸の内

皇居と東京駅に挟まれた地区で、日本の経済の中心として発展した。



なんがんせきたん  
留萌港南岸の石炭ローダー

東京二十七日電  
生命保険會社は從來主として地方公共團體の  
金融の上に力を盡して来たのである  
が、大正十年六月北海道留萌町  
港建設費として内務省認可の  
下に應じたる町債は毫未  
つたが、大正十四年三月三十日引受にて金貨二百四十九万五千圓利息年一割返済期日大正十四年三月三十日であつたが、環定の  
朝日、太陽、福壽、國光、常盤の  
建設工事の進捗せざると財界  
不況のため士地の價格下落等より  
本年三月うちの償還期日来るも利息  
さへも支拂ひ得ざる状態となれる  
も、今は財政頗る困難を告げたの  
で最近更に延期を実現したが、此際  
に至るまでに之に應ぜず、既に此  
問題を解決するを以て安堵とすべしとの  
公世間審議に對する結果、未だに之に對する  
の上に歸る重大的なる意義を有するが、此の問題  
と一緒に注目されてゐる

生 命 保 险 會 社

留 萌 町 債 の 償 還  
延 期 嘆 願 に 對 し  
生 命 保 险 側 強 硬

ちようさい ほうどう しんぶんきじ  
町債問題を報道する新聞記事

しかし、時代は世界恐慌（※83）の最中であり、留萌の町債問題を棚上げにして、さらにこの会社に出資するよう説得して回るのですから、なかなかうまくいかず、大変な苦労であったと思われます。

ただ、億太郎の信念だけが気力を持続させていたのです。

昭和2年（1927）1月末、億太郎から伊佐津和平（町会議員）の所に東京に来てくれるよう電報が来て、かねてから億太郎の指示により作ってあった留萌のPR映画「蓄の留萌（※84）」を持って急いで上京しました。

2月5日、創立事務所に集まったのは、日本の有力企業の重役たちでした。

#### ※83 世界恐慌

昭和4年（1929）アメリカウォール街の株下落に始まる世界的な景気の後退で、日本でも企業の倒産など不景気が続いた。

#### ※84 蓄の留萌

市立留萌図書館で見ることができる。

ちょうさい かか せいめいほけんきょうかい  
留萌の町債問題を抱えた生命保険協会から 13 社、  
めいじこうぎょう あさの みつびし たんこうせんすみとも きゅうざいばつ けい  
明治礦業、浅野、三菱、炭鉱汽船住友と 旧財閥(※85)系の  
きぎょう じゅうやく  
企業の社長や重役たちです。

こうわんかちょういとうちょううえもん  
また、立会人として、北海道港湾課長伊藤長右衛門、  
ちょうさかちょうはしもととうぞう どうせき  
調査課長橋本東三らが同席しました。  
いさづ つぼみ じょうえい  
伊佐津の作成した「蓄の留萌」を上映しながら、会社  
の必要性を訴えたのです。

けいざいじょうきょう さいあく  
しかし、当時の経済状況は最悪で、なかなか事業を進  
めることはできませんでした。

ざいかい  
ただ、億太郎はひるむことなく、中央財界の代表に何  
度も集まってもらって、「会社設立」の説明会を開き、  
たず と  
関係の会社を訪ねては必要性を説いて回りました。

### ※85 財閥

いちぞく ちゅうかく はいか きぎょう かか  
家族または一族による親会社を中心としてその配下に多くの企業を抱える企業集団。

わかつきれいじろうしゅしょう すずきさぶろうせいゆうかい  
そんな時、当時の若槻礼次郎首相、鈴木喜三郎政友会  
そうさい しょうかい けいざいかい  
総裁と会うことができ、その紹介で経済界の実力者だつ  
だんしやく ごうせいのすけ せつりつ  
た男爵(※86)の郷誠之助(※87)と知り合い、会社設立と留萌  
ちょうさい かいけつ  
町債問題解決について、協力をする約束を取り付けるこ  
とができました。

せつりつ しようと ちやくちやく せつりつ  
すると、会社設立に向けていろいろな障害となつてい  
たことがうまく取り除かれ、着々と設立に向けて進んで  
いきました。

こうだんしやく  
昭和3年(1928)3月15日、郷男爵が議長となって東  
せつりつほっさにんかい よく  
京の工業クラブで会社設立発起人会が開かれ、翌4年3  
かいさい せつりつそうかい へ さんばしかぶしき ほつそく  
月開催の設立総会を経て留萌鉄道桟橋株式会社は発足  
かんさやく じゅうやく  
し、億太郎は監査役として重役となりました。

### ※86 男爵

しゃくい こうしおく こうしおく はくしおく ししゃく だんしやく しゃく  
爵位には、「公爵」「侯爵」「伯爵」「子爵」「男爵」の5爵があつた。

### ※87 郷誠之助

じつきょうか しょうこうかいぎょかいとう れきにん きぞくいん  
実業家。日本商工会議所会頭を歴任。貴族院議員。

しほんきん げんざい  
会社は資本金250万円(現在の約50億円)。

きょうばしくぎんざ  
本社を東京都京橋区銀座7丁目5番地に置きました。

かぶぬしめいば くないしょう かぶ やすかわ かぶ  
株主名簿には、宮内省(※88)1,000株、安川10,000株、

あさの かぶ みつい かぶ ほくたん かぶ すみとも かぶ  
浅野10,000株、三井3,500株、北炭3,500株、住友2,500株、

おおくら かぶ みつびし かぶ せいめいほけんきょうかい かぶ  
大倉2,500株、三菱2,500株、生命保険協会10,000株など

の名前があります。

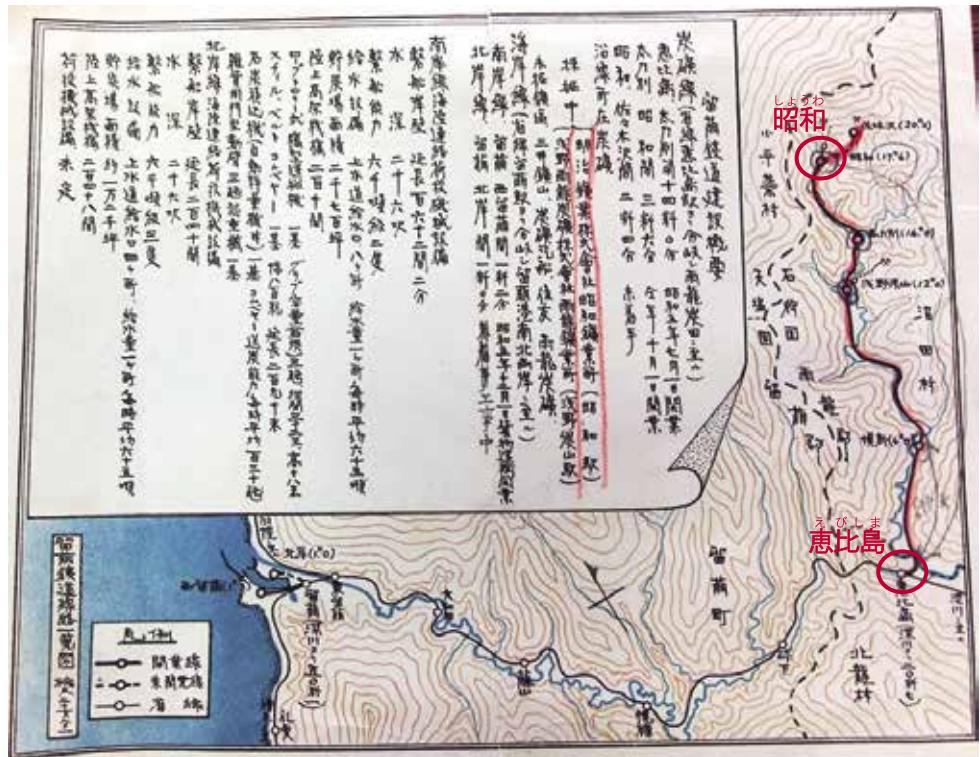


昭和5年留萌鉄道開通記念

※88 宮内省

くないしょう ぜんしん こうしつ かん  
宮内庁の前身。皇室に関するを行う。

せつりつ えびしま  
 会社設立から 1 ヶ月後には、恵比島から昭和間の鉄道  
 ちやっこう えいぎょう  
 工事に着工し、昭和 5 年 (1930) 8 月には完成し、営業  
 を開始しています。



えびしま  
留萌鉄道予定路線図 (恵比島～昭和)